

【奈良文化幼稚園】令和元年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
------	---

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	「遊び中心の教育」を展開する中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と重ねて育ちを理解する。	B	A	多くの事例をとりあげて園庭研修を行いたかったが、十分ではなかった。	生活の中で子どもの様子をどのように取り上げ、伝えるか工夫していきたい。園教育方針と教育要領とのつながりを視覚化し、説得力ある資料を作っていきたい。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、遊びの環境を充実させる。	園庭環境を子どもの動きに合わせて、調整した。その維持管理には、保護者にも参加してもらえた。また、室内環境にも目を向け、改善を図った。	B		子どもの動線から見て、もう少し思い切った環境の作り変えをしたかったが、そのためとまった時間を生み出せなかった。	日々の細かい環境づくりを丁寧に行うと同時にその季節、その時期ならではの環境の作り方を園全体で考えていきたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達の特性を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容を作成できたか。	3学年を通しての発達の道筋また学年での教育課程を確認しながら教育活動を進めた。	A		学年毎によく話し合いをしながら、教育課程の実現に取り組めた。	個人の発達段階や特性を見たとき、場面に合わせたもっと柔軟な教育体制がとれないか探っていきたい。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、園長を中心に教職員で協力して、その実現に向けて教育活動を行ったか。	子ども達の主体的な活動を引き出す為に教職員で話し合い、共有し、活動を進めた。	A		日々の園生活での子どもの実態を把握し、学年会議、職員会議で目指すものを共通理解し、それぞれに応じた教育内容を展開できた。	毎年のやり方にとらわれることなく子ども達主体で新しい取り組みを園全体で楽しみたい。
		①基本的な生活指導	正しい生活習慣の大切さを知らせ、自然と身につくようにする。家庭と連絡を密にしながら、取り組むことができたか。	個人のペースを大切にしながら気持ちよく生活できる環境を自分達でつくり出すよう取り組めた。また、家庭と連携できるよう、その実態や取り組みを伝える方法を工夫した。	A		意識し、楽しく習慣づけることのできるような方法で実践した。写真付きのおたよりを作成し、個々の様子や育ちを丁寧に伝えた。	生活習慣において、個々の現状や目標を家庭と共有し、園だけではなく、家庭でも実践してもらえるように積極的に伝えていくよう心がける。
		①環境を通して行う活動の充実	見通しを持って計画的に環境を構成し、また活動の展開に応じて環境の再構成ができたか。	日々の子どもの様子を観察し、興味・関心事を把握することで、それぞれに合った環境を工夫した。	A		子どもの興味・関心を引き出す、環境づくりを行えた。	季節ごとの工夫やクラスでの取り組みを園全体に広げていく工夫ができる。

I 教育活動に関するもの

(2) 指導の状況

①個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解し、指導をてんかきする。	園生活の中で個々の性格や発達状況を知り、個の課程を共有し、指導にあたることができた。	A
④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子ども達の興味・関心が出発点となる遊びや子どもが自ら考えたり、試したりすることのできる遊びをのびのびと行った。	B
⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	「子ども主体の行事」となっているか、内容や必要性などを検討し厳選した。(七夕まつり会の内容変更など)	A
⑥体力作りを目指す取り組み	子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	毎週の体育遊びの充実やそれを日々の遊びの中で展開できる環境をつくった。その結果各学年で、縄跳びやボールなど年齢に合った運動遊びが自由遊びの中でも広く見られ、成果があった。	A
⑦地域での教育活動の充実	地域に出かけ、地域を知り、地域の中で活動し、感じる機会を大切にできたか。	年長児が地域の山に登ったり、園周辺のごみ拾いを行ったり地域での教育活動を行った。他の学年はできなかった。	B
⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	子ども達が目的、目標を持って、工夫し、考えながら遊ぶ環境の設定に努めた。	A
⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回子ども達が楽しむ機会をつくれたか。	保育時間内で絵本に触れる時間を設け、自分で読んだり、保育者が読み聞かせたりした。また、外部の方に来ていただき、「えほんのひろば」を年間2回実施した。	A
⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士の先生による行動観察を行い、カンファレンスを持ち、実際の援助について考えた。また、療育現場の担当者と連絡をとり個々の課題の把握に努めた。	A

A

個々の成長や発達に応じた指導のあり方や援助するタイミングなどを考え、実践することで、段階的な成長を感じられた。	学年または全教職員間で子どもの発達段階を共有し、園全体で個々の発達を見守っていききたい。
遊び込むための時間をもっと生み出したい。	教育課程の吟味を行い、自由保育と設定保育のバランスを再考する。
子どもの生活を保障する為、行事のねらいや目的について話し合いに時間をとり、思い切った変更を行った。	保護者の理解が得られるように、伝えて行きながら行事とあり方をこれからも考えていく。
普段から取り組んでいる様子を運動会の種目として取り入れた。また、普段の遊びからも積極的に子ども達が体を動かし、縄跳び、鉄棒、ボール遊びなどで遊ぶ姿が見られた。	楽しい運動遊び、継続できる運動遊びについて、講師のアドバイスをもらいながら展開していきたい。
年少児・年中児は園外へ出かけた時、地域のひととの交流する機会が持てなかった。	安心できる環境の中、地域を知る機会を学年に合った形で探っていきたい。
遊びの動線を意識し、遊びこむことができるような場所作りや玩具の数、置き場所などを整え、遊び込めるような環境づくりを行った。	子ども達の動きを見て、必要に応じて、作り変えたり、新しく作ったり環境をつくる必要がある。
絵本の時間を楽しみにし、「えほんのひろば」では、絵本の種類や数が豊富に用意されていて、子ども達は喜んで絵本を手にとっていた。	絵本の貸し出しの充実や、よりよい絵本の精選、自由によい絵本に触れる環境をつくっていく。
クラス、学年で配慮の必要な子の情報交換をし、その子に合った配慮ができるように努めた。	全職員が配慮の必要な子への対応や、方法など共通理解することが必要である。

【奈良文化幼稚園】令和元年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。	園運営や行事の目標に向けて全員で取り組むことはできたが、その中で意欲や取り組みには温度差があった。	B	B	行事等経験ある教員が増え、一人一人が何しなければならぬのか考える力、また段取りを組む力がついてきた。しかし、日常保育において、もっと連携して向上することができたと思える。	キャリアを越えて保育の楽しさをもっと話し合っていきたい。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識でき、募集活動を積極的に行う。	体験入園の回数は前年度より減ったが、その分集中して全教職員で取り組み、成果をあげられた。	A		幼児教育無償化の影響もあるが、予定していた入園定員数より大幅に増した人数となった。	園選びのポイントとして事後アンケートで教職員を挙げている人が多かった。明るく、元気に幼稚園の楽しさや教育的意義をこれからも伝えていきたい。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、議論の上決定したことには、協力し実行している。	必要に応じ、報告・連絡・相談して力を合わせることを全教職員が意識して業務に当たった	A		行事担当以外の教員も進捗状況を随時把握して、必要なことに気づいた教員が動く協力体制をとることができた。	誤った理解がないようにしっかり情報共有を図っていかなければならない。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係で必要に応じて協議、分担して、効率よく運営を進めた。	必要によって分担することで円滑な園務遂行を図ったが、分掌により、十分に機能していないことがあった。	B		事前の準備が不足して効率よく計画的に実施できないケースがあった。	教職員全員が常に全体を見渡して、不足している部分、遅れている部分に目を配り、協力できる体制を整えて行きたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	定期的に職員会議を行い、教職員相互の共通理解に基づく運営をしている。	教職員が参加する職員会議の時間を生み出し、共通理解を図った。	B		会議で決定した内容について、変更があった場合、しっかり情報伝達できていないことがあった。	会議時間を縮小するため、会議前にある(案)を作成して会議に臨むように心掛ける。
		⑥職場の人間関係	教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない。	親睦を深める場を定期的に設けるなど、コミュニケーションを大切にできた。	B		意見交換することで視野が広がり、様々な立場の様々な視点の教育観に触れることができた。	これからも積極的な意見交換ができるような環境を整え、更なる園の充実化を図りたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的な研究を行い、教育内容の質の向上や改善を図っている。	わんぱくの森の活用に向けて外部講師を定期的に招き、園内研修会を実施した。	A	A	外部講師によって新たな見方を示唆されるなど教職員の力量向上のための刺激があった。	継続的に教職員の研修を行い、教育の質の向上に努めたい。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、出来る限り積極的に学習の機会をもつ。	わんぱくの森計画を十分活かせるように先進園の研修に積極的に参加した。	A		先進園を研修した内容を基に、本園に合ったものにアレンジして保育を行った。	他園で学んだ内容をただ報告書にまとめるだけでなく、形あるものにして園を引っ張っていく行動力を一人一人が持ちたい。
		③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で活かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを園で報告し、教育目標に沿った形で本園に取り入れることができるか全員で話し合った。	B		他園での取り組みを学んだ教職員を中心に意見交流の場を持ち、考えを深める機会を持つことができた。	まず実践することで子どもの活動状況を把握でき、反省点や改善点が見えてくるので、積極的に取り組んでいける環境を整えていかなければならない。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	危機を想定し、子どもとともに訓練を実施する。	危機管理マニュアルの見直しを行い、訓練を実施した。	A	A	本年度は事前に打ち合わせせず、実施し、新たな問題点を確認する機会をつくれた。	教職員一人一人が自分の役割をしっかりと把握して、子どもの安全第一を考えていく
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、確認、指導上の上、改善に努めている。	火災・地震など様々な場面を想定した訓練を行うことができた。	A		様々な状況を想定した訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができた。	今後は保護者を含めた合同訓練なども検討して行きたい。
		③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、特に教職員の役割分担を徹底して確認した。	A		急遽、訓練実施することで教職員が実際にとった行動に対して意見交換することで、気づかなかった問題点に気づき、まとめ直しを行った。	教職員が状況に合わせた迅速な対応ができるように取り組んでいきたい
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	消防署や火災報知器業者と一緒に確認する、などの連携をとった	A		消防の方から実際に指導を仰ぎ、安全対策や緊急時の対応を学ぶことができた。	昨年同様、定期的に取り入れることで、対応の仕方を確認しながら指導も受けることが出来るので、今後も関係諸機関に協力いただく。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	①健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について指導を受けた。	A	A	園医と密に連絡を取って相談することで、状況に即応した対応をとることが出来た	今後も、子ども達が安全で健康に生活できるように、園医や保健所との連携を図っていく。
		②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	園からのお便りで、考えうる流行病の予防策や、日常の手洗いうがい消毒を実施等、家庭に呼びかけ子ども達の健康を守った。	A		流行病による情報や園としての今後の対策などの情報発信を速やかに行い、家庭と協力して実行できた。	流行病に関する情報について、保護者が知りたいと思う情報は迅速に流していく。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	「開かれた幼稚園」としての取り組みを計画、実践する。家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	園庭開放や地域との交流、また、地域イベントにも積極的に参加し、交流を深めた。地域をそうじに出かけるなど新しい試みも実施した。	A	A	きちんと元気な挨拶をするなど、発表以外の部分も評価をいただき、地域の中で活動している実感がもてた。	地域の良さを子ども達が感じられる機会をこれからも計画していきたい。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA役員には大きな行事(運動会・バザー)で協力してもらい、PTAのクラブ活動も園の行事に組み入れて発表の場を提供するなど連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員が積極的に行動して運営力となった。	園の行事内容を早めに計画・準備して、連携を取りやすい環境にしていく。
		③幼小連携	今日的課題に向き合い、就学に対する不安を解消する。	小学校の連絡会等に参加してその結果を持ち帰り、子どもたちの就学に対する不安解消に努めた。	B		就学に向けた情報を丁寧に共有することに努めた。	就学先は多数にわたるので時間が費やされるが、子どもたちが安心して就学できるように、情報共有を行っていく。
		④関係者評価の実施	保護者アンケートの結果を知らせる。	3学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、結果報告を行った。	A		自己評価及び園教育アンケートを基に、学校関係者評価を実施し、本園が取り組んでいかなければならない改善点が見つかった。	保護者会での説明など他の有効な開示の方法を考える。また、地域の人を含めた第三者評価の結果を活かしていく。
	(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	責任をもって、清掃・点検・後始末をする。	各学年で担当箇所を決めて清掃や点検を行っている。	A	A	園児と一緒に頑張って清掃するなど、きれいな環境を心がけ、責任をもって取り組むことができた。	子どもたち自身も環境に対する美化意識を持ち続け、担当場所を毎日確認し、維持できるようにする。
		②遊具、用具の活用状況と全体管理	安全に活用できるように点検、整備をする。	園児が登園する日は保育が始まる前に、遊具の安全点検を行い、速やかな修繕対応ができた	A		教職員で遺漏なく点検及び修繕をしている。園児の安全を第一に点検に取り組んでいた。	専門家の見地からのアドバイスもいただきながら安全性を保っていききたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(7) 情報管理	①公文書の收受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	細かく分類して文書を保管し、必要な時にすぐ参照することができた。	A	A	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類しており、見やすくしている。	PCを活用し、効率よい情報共有を展開していく。
		②公文書の作成	速やかな対処をする。	期日を厳守することはもちろんだが、極力速やかな文書作成に努めた。	A		幼児教育無償化により煩雑な事務処理を確実に進めることができた。	保護者に丁寧に説明し正確に処理していきたい。
		③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人情報の取扱には細心の注意を払い、不要な情報が伝わらないよう全教職員が努めた。	A		不特定多数が対象のホームページでの発信も含め、細心の注意をはらっていたので、特段の問題はなかった	PCデータにパスワードをつけるなど、徹底管理していく
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	行事後の記事掲載など、情報発信を速やかに行うことができた。	A		スマートフォンからでも情報が見やすいように改善しており、募集力の向上にも繋がっている	掲載する情報がPC版と携帯版で異なることがあったので、担当者は必ず確認するよう心掛ける